

高知県坂本龍馬記念館・現代龍馬学会

龍馬縁の地

私のテーマ

「八畳岩への思い」

高知市議会議員
現代龍馬学会員

川村 貞夫



田中良助と2人で

龍馬はすつと立ち上がり
てつぶやいた。

「山内の殿様も小さな城に
いるものだ。それにしても、
海は広いのう」

傍らで田中良助がうなづい
た。

「キラキラと光るのは鏡川
か」

「坂本殿のお屋敷は右手の
方でございます」良助は応え
る。

「乙女ねえやんに連れられ
て泳いだ川だ」

若い龍馬と田中良助はよく
この岩に上った。
そして、城下を見下ろし、世
遠くの景色を眺めながら、世
界の国々にまで思いを馳せる
のであった。
この岩こそ、龍馬縁の地で
あり、後々の龍馬を育んだ場
所である。

その名を「八畳岩」という。

返さなかつた借金

和靈神社と鏡川

この大きな岩は、高知市の北
山の柴巻にある。
畠八畳ほどの広さがあると
ころからこの名がある。坂本家
所領の山番をしていた田中良

龍馬は文久2年に脱藩する。
その際に、祈願したのが神田の
和靈神社である。坂本家の先
祖が伊予の和靈神社から分靈
して建立したものだ。龍馬が子

劍道の手ほどきを受けた日根
野道場は、坂本家の南築屋敷
界隈にあつたといわれている。お
そらく龍馬が泳いだとされる
場所もこの辺りの鏡川ではない
かと思う。成長した龍馬が江
戸に出た時、待ち受けていたの
は、世界の列強のことであり、
黒船に代表されるようなどつ

どもの頃から親しんできたこの
神社には毎年お参りしことあ
ることに祈願してきたのである。
龍馬が命がけの脱藩を決意
し、出立の際にはこの神社で水
杯をおひつて、勇ましく踏み出
したのである。今、この神社近
くには大きなヒノキが何本か
あるが、樹齢からして150年
を優に超えていると思われ、若
木の頃のヒノキが龍馬の旅立
を見送った

と推察する。
さらに遡
ること18
35年。龍
馬は、上町
にあつた才
谷屋で生ま
れた。幼少
期の龍馬に
金は、錢別程
度に考えた
二人の親しい
間柄が垣間
見えるよう
だ。



「八畳岩」を訪れるときの笑顔。遠くに太平洋が見える。

龍馬はもつとも感受性の強い
時期に、八畳岩に上っている。そ
れは田中良助に可愛がられた
こともあるが、実はもつと深い
意味がここにある。岩に上れ
ば、高知城が見下ろせる。鏡川
の流れが見える。さらに、浦戸
湾から太平洋も一望できるのだ。
東南に開けたこの場所は、運気
も集まる。今流に言えば、市内
有数のパワースポットである。龍
馬がこの岩に上り、土佐藩の城
下を鳥の目でもって眺めたこと
が、後々、龍馬が出てわすこと
になる大きな事件でのものを見
方、考え方の下地になつたので
はないかと、私は思う。

幼少期の原体験や原風景が、
知らず知らずのうちにその人
格を形成していく。龍馬が泳い
だ鏡川、お祭りやお参りに通つ
た和靈神社、足繁く通い好んだ
八畳岩。どれもが龍馬に大き
な影響を与えたであろう。
しかし、幕末当時の面影は今
はなく、どれも大きく変わって
いる。唯一、八畳岩だけは大きさ
も、厚さも若い龍馬が座った当
時と寸分も違っていない。ただ、
岩に生えていた松の木が枯れて
しまったが、それ以外は、全く違
いを見せない。そう考えると、
龍馬の思いや息遣いが今でも伝
わってくるようだ。

伝わつて来る息遣い

学ぶ、感じることの大切さ

龍馬の生きた時代は、それほど多くの情報に囲まれた時代
ではなかった。そして「やれ佐幕
だ、勤皇だ」、「やれ攘夷だ、開
国だ」と対立したり、分裂した
りした時代にあって、その判断、
行動において龍馬ほど感性豊
かな人物はいなかつたよう思
う。今日の社会では、何か得体
の知れないものは評価されない
し、理屈に合わないことは排斥
されがちだが、私は「感じる」と
いうことは非常に重要であると
思う。龍馬の感性はこの八畳岩
で養われたと考えている。それ
だけの価値ある場所だ。そんな
岩を見直して欲しいと考へてい
る。いや、この岩で龍馬が「何を
思い」、「何を感じ取った」の
か、岩の上で自らの肌で、五感
で感じ取つて欲しいと思っている
のである。

一こぼれ話

「マディソン郡の橋」

一 大歩棒当記（五）

京都国立博物館 宮川 穎一

この大歩棒当記の第二回目は千葉佐那の話であった。その中で筆者は「龍馬の死後も生涯独身を通した」と記した。

しかしその後「佐那は一度結婚していた」との新聞報道があつた。その話である。

千葉佐那が明治七年に旧鳥取藩士の山口菊次郎なる人物と結婚し、そのち離縁した、とは東京の研究者による最新の調査成果である。

明治二十六年八月二十四日の読売新聞ではすでに「龍馬の死後、固く操を守つて現在に至る」という内容の記事が記されている（九月二一日）の『女学雑誌』の記載とはややア

ンスが異なるが）、自分の結婚歴を取材の新聞記者には話さなかつたのである。読売新聞は美談として佐那を生涯独身だったと記述したのだ。

明治時代の後半に成立した坂本龍馬を想つて生身の「龍馬」などという神話は龍馬ファンの心に深く浸み込んでいたのだ。そのため佐那に結婚歴があることを聞き、筆者も含め、少なからぬショックを受けたのだ。一部には拒絶反應さえある。

この話で想起されるのは映画『マディソン郡の橋』である。

メリル・ストリープとクリント・イーストウッド主演で不倫をテーマとしたアメリカ映画である。一九九五年の封切り当時には大きな話題となつたの



愛媛県大洲市
河辺町の「御幸の橋」

コラム・龍馬のこと

袂石と高知市観光遊覧船

ホテル日航高知旭ロイヤル・現代龍馬学会会員 坂本 雅彦



観光遊覧船

平成20年3月高知市観光遊覧船が高知市九反田より出航することになった。渡邊事務局長のお説話を受けて乗船した。九反田から出発して桂浜沖にて帰つて来る。時間は約1時間15分の船旅である。途中、坂本龍馬にゆかりのある場所をガイドに紹介される。それが袂石であった。

慶応3年（1867年）9月18日坂本龍馬は5人の有志（菅野賞兵衛、陸奥陽之助、中島作太郎、岡内俊太郎、戸田雅樂）と共に1200挺のライフルを震天丸に積み込み長崎を出航、途中下関に200挺を下ろし土佐へ。同年9月23日浦戸湾に入港し「袂石」の場所に停泊。龍馬は種崎に上陸し中条家に一泊、その後、本町の自宅に帰り、家族、同士らと宴會している。この出来事は中条家の「隨分隣隣」に記載されている。龍馬はその約2ヶ月後に京都で暗殺される。又、1000挺の一挺は戊辰戦争の時、板垣退助が使用している。こんなストーリーが遊覧船の中で聞けるとは驚きであった。「袂石」を高知県の新しい観光スポットにできないだろうか？そんな思いがひらめいた。骨格は8割できている。後日、渡邊事務局長に伝えた。当初1隻しかなかった遊覧船は関係者の後押しもあって3隻に増えた。ただ、広く認知されるにはまだまだ。そこで、機会あるごとに「袂石」を話題にするように心がけた。遊覧船の中でも「袂石」に近づく時は、「龍馬伝」のテーマ曲を流すようお願いした。そして何より「龍馬伝」で「袂石」を印象づけることは出来ないか考えた。考えた末に2010年2月、私は渡邊事務局長を説いてNHKの高知支局長にお願いに行つた。「龍馬伝」の終わりに流れる「龍馬紀行」に「袂石」の映像を流していただけないだろうか？支局長曰く「確約はできないが努力はしてみる」。結果、同年11月、晴れて「袂石」は全国デビューとなったのである。最後にこの「龍馬の袂石物語」をもっと全国に伝えたい。

イベントのおしらせ 「第3回 現代龍馬学会・研究発表会」

●日時：2011年（平成23年）5月28日（土）午前10時～ ●場所：国民宿舎「桂浜荘」地下一階大会議室

3回目を迎えた現代龍馬学会研究発表会。今回のテーマは「自由・平等・平和」。公聴は無料です。

●発表者：三浦夏樹（坂本龍馬記念館学芸員）、広谷喜十郎（土佐史研究家）、高山みな子（勝海舟子孫）、坂本登（坂本家子孫）、野藤等（講岐龍馬会塩飽社中）、橋詰明仁（カルチャーサポーター）、上野麻衣（龍馬の生まれたまち記念館学芸員）、宮川禎一（京都国立博物館 考古室長） ●どうぞご期待下さい。

“話してみるかよ”

若者よ、海を越えよ！

現代龍馬学会会員 三宮 洋一

私とジョン万との出会いは一年前、沖縄のジョン万次郎帰國の上陸地点に行ったときである。それ以来、旧知の友人である永国淳哉先生を尋ねたり、本やネットで調べたりして現在の高知ジョン万会の活動に入った。

昔、ジョン万をテーマにした歌舞伎が上演され、それをジョン万自身が観たという。フィリピンの革命家ホセ・リサールもそれを観ていたらしい。彼の革命を助けたのは土佐人の坂本志魯雄という人だが、私自身、そのフィリピンで2年前から環境問題についてかかわってきたことを思うと何かしらの強い縁を感じる。

大河ドラマ「龍馬伝」のおかげで、私にも幕末の歴史が少し見えてきた気がする。幕末、20代、30代の若者が故郷を脱出し日本を動かした。まさにこの力が今の時代に欲しいものだ。通信手段も交通手段も乏しい時代にくらべ、今は膨大な情報があり、自分から求める必要もない。社会人になるまでに、自分から求めて動いた人と与えられたままの人では雲泥の差がつくのは明らかだ。平和ボケした日本では無理かもしれないが、一度どん底まで行って立ち上がったほうが良いのかもしれない。開発途上国や兵役のある国の若者の精神はハングリーで龍馬の時代のそれと変わらなかったりするものだ。

海外に出て実際にそのような国を見て、彼等と出会い、その場所を見聞きし、体験することこそが、現代の日本の若者には一番大切であるように思う。

こんな世の中だからこそ声を大にして言いたい。「若者よ、海外に出なさい！」と。

高知県立坂本龍馬記念館
〒781-0262 高知市浦戸城山830

TEL(088)841-0001 FAX(088)841-0015
<http://ryoma-kinenkan.jp>